

再歩

～再建までのみち～

とも だ たけ ひさ
塘田武尚 さん (77)

行政区：寺 迫

「待っていても解決しない」

一歩足を踏み入れた瞬間、出迎えてくれたのは新築特有の木の香り。入居後2か月となる塘田武尚さんと奥さま(74)の新築の家です。

「前震の時、居間に置いていた水屋が倒れたんです。もし、その下敷きになっていたら大けがをしていたかもしれませんが。たまたまいつもととは違う部屋にいて命が助かりました」と塘田さんは昨年の地震を振り返りました。木造2階建てだった家は、倒壊こそ免れたものの全壊となったため、塘田さん夫婦は車中泊を2、3日続けた後、益城中央小学校体育館に避難、一緒に住んでいた長男(45)は車中泊を続けました。

その後、一家そろって津森仮設住宅へ入居しましたが、その頃には自宅の再建について考えるようになっていました。

昨年9月に自宅を自費解体した際には、「ボランティアに頼りすぎではいけない」、「甘えていたら何もできない」との思いから、解体前の自宅の片づけはすべて自分たちで行ったという塘田さん。新築に関しては、幸い娘婿が建設会社に勤務していたことから、

いろいろな相談に乗ってもらい、今年2月には棟上げをすることができました。

再建費用には、生活再建支援金、義援金に加え、これまでの預貯金を充てたといいます。また、4つの部屋とダイニングキッチンからなる約28坪の平屋建ての家の工事では、自分でできることがあれば、できるだけ手伝いました。

「自宅を再建することについては、苦労とは思いませんでした。ほぼ思いどおりの家が建てられて、家族全員が健康に過ごせていることが良かったと思っています。これからまた大きな地震が発生するかもしれませんが、心配してもしようがありません。自宅の再建は待っていても解決しないんですから」。そう話す塘田さんには、これからまだ、被害を受けたお墓や納骨堂の整備が待っています。

現在、武尚さんは神経痛で運動はあまりできないということですが、奥さまは仕事の合間に健康ダンスなどを楽しんでるそうです。

常に前向きな考えを持って毎日の生活を送っている塘田さんは、77歳という年齢を感じさせないほど、終始はつ



らつとした表情で取材に応じてくれました。

●町では、熊本県住まいの再建相談支援事業で、住まい再建に係る総合相談員配置の準備を進めています。宅地復旧、住宅融資および法律に関することなど、相談員が対応しますので、お気軽にご相談ください。詳細は、決定次第お知らせします。

「再歩」については、住まい再建についての参考情報として、今後も毎号掲載していく予定です。

生活再建支援課
住まい再建係
☎ 289 - 1400